

# 「新時代の異業種交流会」に関する報告書

令和 7年 3月

福井経済同友会 人づくり委員会

## 目 次

1. はじめに	1
2. 活動の目的と背景	2
3. 実施概要	3
4. 各回の実施内容と評価	5
○ 1回目:ワールドカフェ	5
○ 2回目:研究機関見学	5
○ 3回目:クロストークショー	6
○ 4回目:プレゼン共同作成	7
○ 5回目:プレゼンパーティー	8
5. アンケート結果分析	11
○ アンケートの概要	11
○ 1回目アンケート結果	11
○ 2回目アンケート結果(若手)	12
○ 2回目アンケート結果(同友会)	13
6. 活動の総括	16
○ 成果と良かった点	16
○ 課題と改善提案	16
7. 次年度に向けた提案	18
8. おわりに	21

### 委員会名簿

アンケート集計結果（WEBで公開しています。）

- 第1回目アンケート結果詳細 <https://x.gd/jstjD>
- 第2回目アンケート結果詳細(若手社員) <https://x.gd/Il3r3>
- 第2回目アンケート結果詳細(同友会) <https://x.gd/jpzN8>



(第1回)



(第2回若手)



(第2回同友会)

# 1. はじめに

近年、福井県内で働く若手社員は、同業他社や異業種の人々と業際を超えた交流の機会が限られています。しかし、特にZ世代の若手社員は、同世代や異なる視点を持つ人々との対話を通じて成長する可能性を秘めており、新たな価値観や考え方を取り入れることで、視野を広げることが可能です。

福井経済同友会の「人づくり委員会」では、こうした状況を鑑み、企業の枠を超えて若手社員が交流し、学び合う場を提供するために「新時代の異業種交流会」を企画しました。本報告書では、2024年度に実施した交流会の内容と成果をふりかえり、今後の方向性についてまとめました。

本報告書が、経営者の皆様にとっては新たな人材育成のヒントとなり、若手社員にとっては異業種交流の価値を知るきっかけとなることを願っています。また、未加入の方々にも本活動の意義を理解していただき、福井経済同友会への関心を持っていただければ幸いです。

福井経済同友会 人づくり委員会  
委員長 田中謙次



(プレゼンパーティーの記念撮影)

## 2. 活動の目的と背景

### (1) 活動の目的

本交流会の目的は、異業種間での交流を通じて、若手社員が新たな価値観や視点を得ることにあります。普段の業務では接する機会の少ない他業界の人々と議論し、共通の課題や異なる考え方に触れることで、より広い視野を持つ人材へと成長することを目指しました。また、人づくり委員会のメンバーもファシリテーター役を担いながら議論の場に参加することで、若手社員の価値観や考え方を学び、今後の経営に取り組む学びを深めました。

現在、日本中で人手不足が深刻な状況であり、特に福井のでは、県外に流出した若者のUターンが減少しているため、人手不足はかなり厳しい状況になっています。若者が就職先を選ぶ際には、給与水準や休暇といった条件および女性活躍や子育て環境に加えて、自分が成長できる場、環境を提供できる企業かどうか基準の一つとなっています。この活動は、その一助を担うことができると考えています。

### (2) 活動の背景

福井県は高い雇用安定性と幸福度を誇るものの、若手社員のキャリアパスの多様性が不足している傾向があります。特に、異業種交流の機会が限られており、自社以外の文化や働き方を知る機会が少ないことが課題とされています。そのため、企業の枠を超えた学びの場を提供し、地域全体の人材育成に寄与することが本活動の背景となります。

### 3. 実施概要

#### (1) 企画の趣旨

本交流会では、単なる名刺交換の場ではなく、実践的な交流と学びの場として設計しました。

- **対話の場の提供:** ワークショップやグループディスカッションを通じて、若手社員が積極的に意見を交わす機会を設けました。
- **幸福な未来を想像する:** 参加者同士が協力しながら自らの未来(経済産業、働き方、ウェルビーイング、子育てなど)についてテーマを定めて共同作業によりプレゼンを行うことで、異業種間での若手連携を強化しました。

#### (2) 参加条件

- 福井経済同友会の会員企業に所属する、30歳前後または入社10年目までの若手社員
- 5回すべての会に参加可能な方
- SNSやレポートに写真の掲載が可能な方

#### (3) スケジュール

回	日付	内容
第1回	5月21日	ワールドカフェ(アイスブレイク・価値観の共有)
第2回	6月25日	研究機関見学(最先端技術の学び)
第3回	7月30日	クロストークショー(若手×経営層の対話)
第4回	8月21日	プレゼン共同作成(異業種間のチームワーク)
第5回	9月27日	プレゼンパーティー(発表と交流)

※各回とも14時～17時に開催 終了後は毎回懇親会を開いた。

# 新時代の異業種交流会

若手職員

異業種交流

社長と交流

企業視察

グループワーク

ウェルビーイング



2024年5月から  
毎月開催  
5回シリーズ

2022年度の様子

福井経済同友会 若手社員の「異業種交流会」ってどんな会？

## なんのためにやるの？

県内で働く若手社員は、同業・異業種問わず、仕事上以外の交流が比較的少ないと言われていいます。しかしZ世代などは、高め合える仲間との繋がりに価値観を持ち、拡がりによって成長する傾向があるようです。当委員会は、若手社員が会社を飛び出して同世代と交流することで多角的な視点を持ち、新たな価値観を見つけていく、福井の「人づくり」を目指しています。

## 参加者の感想やメリットは？



自分自身の働き方やモチベーションを改めて考えなおすきっかけになりました。異業種の方とも仲良くなり、プライベートで食事にいたりする仲になり、交友関係が広がったことも自分にとって大変有意義なものになりました。

これまで異業種の方とお話する機会はありませんでした。様々な方と交流すると視点の違いがおもしろく、自社や自分に足りないものが発見できて、業務に活かせそうです。



## ■ 参加要綱

- 対象 ① 30歳前後もしくは入社10年目までの方 ※福井経済同友会加入者の企業従業員が対象です。
- 募集数 ② 30名(男女比率が半々程度) ※応募者多数の場合には、委員会でやむを得ず調整させていただく場合があります。
- 条件 ③ 全ての回に参加できる方(経営者や上司の方、ご理解とご配慮をお願いします) ※撮影写真の公開許可をいただける方
- 参加費 ④ 無料 (ただし、各回終了後の懇親会は有料です)
- スケジュール ⑤ 5/21、6/25、7/30、8/21、9/27に企業視察やグループワークを開催。各回14時~17時の予定(変更時は連絡します)

「志」が高い方の、積極的なご参加をお待ちしております。

参加申し込みはこちら

福井経済同友会 人づくり委員会  
福井市大手3丁目12番20号 富田第一生命ビル3階  
電話(0776)29-2220 info@f-doyukai.jp

<https://00m.in/QhrAn>  
締切は、2024年4月15日(月)17時まで



福井経済同友会  
FUKUI ASSOCIATION OF CORPORATE EXECUTIVES

(募集チラシは同友会会員の企業の全てにご案内)

## 4. 各回の実施内容と評価

### (1) 第1回:ワールドカフェ

#### 実施内容

- 福井に関するクイズを実施し、体を動かしながらアイスブレイクを行った。
- 参加者がグループに分かれ、事前に用意されたテーマについて自由に対話。

#### 評価

- 参加者同士がリラックスして交流でき、初対面の人とも意見交換が活発に行われた。
- 一方で、テーマによっては会話の深掘りができなかったとの意見もあり、次回以降のテーマ設定に課題が残った。



(ワールドカフェの意見をまとめてテーブルごとに発表)

### (2) 第2回:研究機関見学

#### 実施内容

- 県内の先端技術を研究する機関(国立研究開発法人産業技術総合研究所北陸デジタルものづくりセンター、福井県工業技術センター)を訪問し、最新の技

術や産業動向を学ぶ。同世代の技術者の仕事に対する考え方ややりがいなどを知る。

- 参加者が各々の業務と関連づけながら、質問や議論を行った。

## 評価

- 普段接することのない分野の知識に触れ、新たな視点を得る機会となった。
- ただし、見学時間が短く、さらに詳しく知りたかったとの意見も多かった。



(科学技術の研究に触れ、同世代の研究者の仕事ぶりについて意見交換を実施した)

## (3) 第3回:クロストークショー

### 実施内容

- 若手社員と経営層が交互に登壇し、仕事観やキャリア形成について同じテーマでディスカッション。
- 参加者からの質問を交えながら、双方向の対話を重視した。

## 評価

- 経営者の視点を知ることができ、若手社員にとって貴重な学びの機会となった。
- しかし、時間が足りず、質疑応答の時間をもっと増やすべきとの声もあった。



(パネラーもファシリテーターも交互に実施)

#### (4) 第4回:プレゼン共同作成

##### 実施内容

- 第1回に分類されたグループで、テーマに沿ったプレゼンテーションを作成。
- 異業種間の価値観や仕事流儀など異なるメンバーがチームワークを重視し、限られた時間内で成果をまとめる形式とした。

##### 評価

- 他業界の考え方や業務の進め方を学ぶ良い機会となった。
- 一方で、準備時間が短く、終了後にグループごとに日程を設定して追加で集まったこともあり、完成度を高めるにはさらに時間が必要との指摘もあった。



(経営者へのインタビュー。お互いに熱がこもりたくさんの思いを引き出している)

## (5) 第5回:プレゼンパーティー

### 実施内容

- 各グループが作成したプレゼンを発表し、成果を共有。
- 参加者同士の交流を深めるための懇親会も実施。

### 評価

- 一連の交流会の総仕上げとして、チームワークの成果が発揮された。
- ただし、発表時間が短く、もう少し詳細なプレゼンができる機会が必要との意見もあった。



(司会はフリーアナウンサーの堀内くみ子さんと委員長。副委員長から経緯の説明)



(各チームの発表の様子)



(各チームの発表の様子)



(各チームの発表の様子)



(たくさんの質疑応答にも会場が沸く)



(投票により6つの賞が与えられた)



(パーティーは大盛況。チームを超えた友情が生まれている)



(特技のジャグリングの披露！DJを入れて会場の雰囲気もアップ)

## 5. アンケート結果分析

### (1) アンケートの概要

本年度の異業種交流会では、イベントの成果を評価し、次年度以降の改善に役立てるために2回のアンケートを実施しました。

- 1回目アンケート(イベント終了直後。アンケート締切日10月20日)
  - 交流会全体の満足度や、各回の活動に対する評価を収集。
  - 参加者がどのような学びや発見を得たのかを分析。
  - 具体的な改善点や要望を調査。
- 2回目アンケート(約3か月後。アンケート締切日1月10日)
  - 異業種交流会の影響が、実際の業務やキャリアにどのような影響を与えたかを調査。
  - 交流会で得たつながりがその後も続いているかを検証。
  - 経営層・若手社員の双方からフィードバックを収集。

### (2) 1回目アンケート結果

#### (回答率)

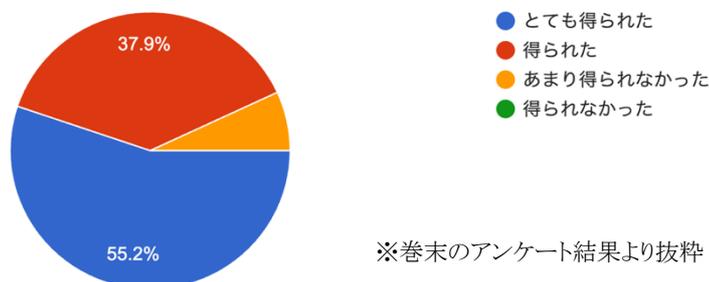
- 50%(29人/58人)

#### (満足度調査)

- 参加者全体の92%が「満足」または「非常に満足」と回答。
- 特に「新たな価値観に触れることができた」「他業界の人と話す機会が増えた」という点が評価された。

## 2-7 参加動機に対する成果は得られましたか？

29件の回答



### (活動別評価)

- **ワールドカフェ:** 参加者同士の距離が縮まり、リラックスした雰囲気で見学交換ができた。テーマが設定されていたため、話しやすかったが、話しづらいテーマもあり、改善の余地がある。
- **研究機関見学:** 普段触れることのない最新技術に触れる機会として好評だったが、見学時間が短く、質問する時間が限られていたとの意見が多かった。
- **クロストークショー:** 若手社員と経営層が直接対話できる貴重な場だったが、もう少しディスカッション形式に工夫があると良かったとの意見も。
- **プレゼン共同作成:** チームの仲が深まり、異業種間での共同作業の学びが得られたが、作成時間が不足していた点が課題。
- **プレゼンパーティー:** 大きな舞台で発表できる貴重な経験となったが、長時間のイベントだったため、座席の配置などの改善が求められた。

### (主な意見・改善点)

- イベントごとの時間配分を見直し、議論や作業時間を確保する。
- 交流会後のフォローアップを強化し、継続的な関係構築を支援する仕組みを作る。
- より具体的な業務課題にフォーカスしたディスカッションの場を増やす。

## (3) 2回目アンケート結果(若手)

### (回答率)

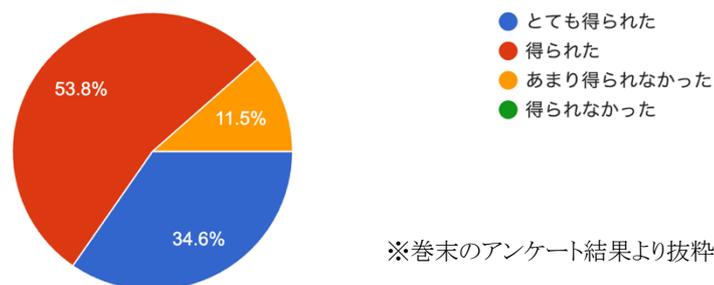
- 84%(26人/31人)

### (交流会の成果)

- 88.4%が「成果を得られた」と回答。
- 特に「他社の若手とのつながり」「異業種の視点を知る機会」が評価された。
- 一方で「積極性が足りず十分な成果を得られなかった」という意見も。

#### 4-1 現在、参加動機に対する成果は得られましたか？

26件の回答



### (影響の持続性)

- 65.3%が「交流が続いている」と回答。
- 一部ではLINEグループを活用し、情報交換を継続。
- しかし34.6%は「ほとんど交流がなかった」と答え、継続的な関係構築の難しさが浮き彫りに。

### (課題と改善策)

- 交流後のフォローアップを強化し、定期的な再会の機会を設ける。
- 初参加者の積極性を引き出す仕掛けが必要。
- 価値観の共有を深めるためのテーマ別ディスカッションを導入。

## (4) 2回目アンケート結果(同友会)

### (回答率)

- 56%(15人/27人)

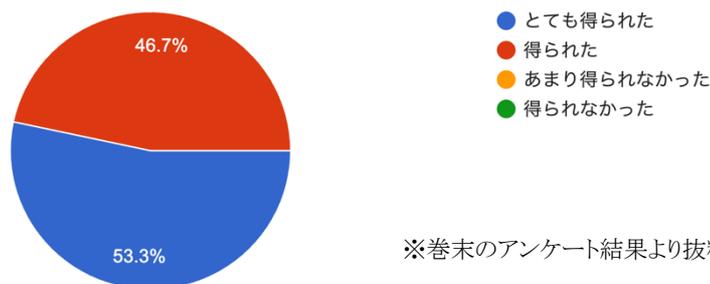
### (経営層の評価)

- 100%が「何らかの成果を得られた」と回答。
- 「Z世代の価値観を理解する機会となった」という声が多い。
- 若手の成長を間近で見られたことが組織運営に役立った。

#### 4-1

異業種交流会に参加された方（社員を派遣いただいた方）は動機に対する成果は得られましたか？

15件の回答

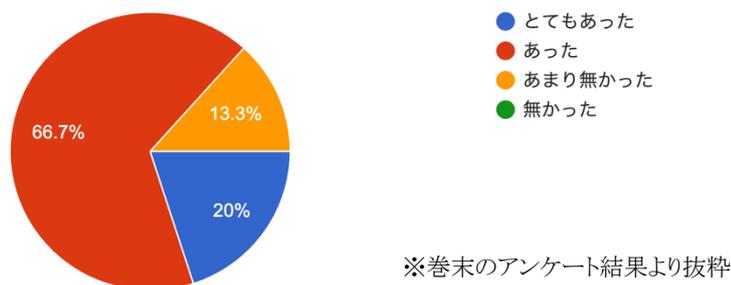


#### (業務への活用)

- 87%が「自社の研修に活かせる」と回答。
- 交流会で得た考え方を雇用やマネジメントに応用。
- 一部の経営者は「社員の評価が変わり、より積極的な関わりを持つようになった」と回答。

4-4 その後、同友会もしくは若手職員の参加者と価値観を共有することはありましたか？

15件の回答



#### (課題と改善策)

- 「短期間での大きな変化は見られなかった」との指摘。
- 成果を社内に定着させるためのフォローアップが必要。

- 参加者が業務に活かせる形で学びを持ち帰れるよう、実践的なワークショップを導入。

## 6. 活動の総括

### (1) 成果と良かった点

#### (a) 若手社員の成長と視野の拡大

異業種交流会を通じて、参加した若手社員は「自社の枠を超えた考え方に触れ、新たな視点を得ることができた」と回答しています。特にプレゼン共同作成やクロストークショーの場では、他業種の人々と議論を重ねながら、自らの考えを言語化する機会を得ました。また、第2回アンケートでは「自分の業務に役立つ知見を得られた」との回答が多く、視野が広がったことが明確になりました。この経験を通じて、「論理的思考力」「説明力」「交渉力」など、業務に直結するスキルの向上が見られました。

#### (b) 経営層の意識改革

経営層側も、異業種交流会を通じて「若手の価値観を知る機会になった」と評価しています。特にZ世代の働き方やキャリア志向についての理解が深まり、社内でのコミュニケーション方法を見直す契機となった企業も多くありました。また、若手社員が積極的に意見を述べる姿勢に刺激を受け、「次世代リーダー育成のヒントを得た」との声も挙がりました。

#### (c) 企業間のネットワーク強化

異業種の社員同士がつながることで、業務上のコラボレーションが生まれるきっかけとなりました。例えば、ある製造業とIT企業の参加者がイベント後も情報交換を続け、自社の業務改善に役立つ取り組みが始まった事例があります。こうした横のつながりは、企業の枠を超えた新たなビジネスの創出にもつながる可能性を秘めています。

### (2) 課題と改善提案

#### (a) 交流の持続性の課題

一方で、参加者間のつながりが一過性のものになりやすいという課題も浮かび上がりました。交流会の期間中は活発だったものの、終了後には「自発的に交流を継続する

ことが難しい」との声があり、継続には個人差がありました。フォローアップの仕組みが求められています。

### 改善提案

- 参加者が改めて集まる機会を設ける: オンライン・オフラインでの再交流会を定期的に開催し、つながりを継続できる仕組みをつくる。
- 交流促進のための仕掛けを導入: プレゼンテーションの発表内容を具体的に活動へと導くなど、特定のテーマを持つ集まりを支援する。
- 企業訪問を導入: 同グループ内で企業訪問を行うことで、相手の仕事への理解を深める。
- 運動会やマラソンなどのイベントへの参加: チーム単位での活動を通じて、交流を強化する。

### (b) 議論の深さの課題

ワールドカフェやクロストークショーでは、異業種間の対話が活発に行われましたが、「議論の内容が浅く、具体的な業務課題に落とし込めなかった」との意見もありました。

### 改善提案

- 事前に参加者が考えを整理できる準備資料や課題リストを提供。
- 深い議論を促すためのファシリテーターを配置し、より実務に即した議論を展開。
- ケーススタディを活用し、参加者がより具体的な問題解決に向けた意見交換ができる場を設ける。

### (c) 経営層と若手社員の意識のズレ

経営層と若手社員の意識には依然としてギャップがあることが明らかになりました。経営者は「会社の発展に向けた積極的な姿勢」を求めるのに対し、若手社員は「自己成長の機会」として交流会を捉える傾向がありました。このズレを埋める取り組みが必要です。

### 改善提案

- 経営者と若手社員が共同で企画を進めるセッションを導入。
- 経営層向けの「Z世代のキャリア観」理解セミナーを開催。
- 若手社員が経営者に対してプレゼンを行う場を設定し、相互理解を深める。

#### (d) 参加者の役割を活用する

次年度には新たな参加者が増えることが期待されるが、既存参加者が引き続き関与することで、よりスムーズな運営が可能となる。

#### 改善提案

- **今年度参加者がファシリテーターやチューター役**: 経験者として新規参加者をサポートし、より深い学びが得られる環境を整える。
- **参加者主導の企画**: 参加者自身がテーマを決め、交流会を運営する仕組みを導入する。

## 7. 次年度に向けた提案

次年度の異業種交流会では、若手社員が主体的に学び、成長できる場を提供するとともに、企業がその成果を実感できる仕組みを強化することを目的とする。以下の施策を実施し、交流の継続性と実務への応用力を高める。

### (1) 持続的な学びと交流の強化

#### 課題

異業種間でのネットワークは形成されたが、交流の継続が難しいとの声が多く、単発のイベントで終わる傾向があった。

#### 提案

- 「実践型メンタープログラム」:若手社員同士の交流を継続するために、先輩参加者や学生起業家などによるメンター・メンティー制度を導入し、継続的な意見交換の機会を創出。
- 「異業種ビジネス研究会」:実務に応用できる最新の業界課題をテーマに、グループ別の勉強会を定期開催。
- 「交流を深化させる企業訪問プログラム」:参加企業同士の相互訪問を実施し、実際の業務環境を理解しながら異業種の知見を取り入れる。
- 「成長ストーリー共有会」:参加者が仕事上での自身の成長体験を言語化し、グループ内で共有する。これにより、参加者同士の理解や交流を深めるとともに、言語化された経験は勤務先での人材育成や採用活動に活用できる。

### (2) 若手社員の主体的な成長機会の創出

#### 課題

これまでの異業種交流では、受け身の参加が見られたこともあり、主体的な学びの機会が不足していた。実践を通じた経験を積むことで、より確かな成長を促したい。

## 提案

- 「実務応用型ケーススタディ」: 実際の経営課題を基に、若手と経営者がチームで解決策を考え、互いに提案する機会を設ける。
- 「課題解決プロジェクト」: 異業種チームで短期プロジェクトを組み、実際の業務課題を解決する模擬プロジェクトを開催。
- 「経営層とのクロスディスカッション」: 経営層が抱えるリアルな課題について、若手社員が解決策を議論し、経営者の視点を学ぶ機会を増やす。
- 「懇親会プランニング」: 参加者が主体となって参加者の交流が促進できる懇親会を自ら企画・運営する。

### (3) 交流の幅を広げ、多様な視点を取り入れる仕組み

#### 課題

同業種や限られた業界の関係者とししか交流することが無く、新たな視点を獲得する機会が不足していた。

#### 提案

- 「他地域・海外との連携強化」: 県外・海外の企業や異業種交流会と連携し、文化や環境の違いを知り、広い視野を持てる仕組みを作る。
- 経営者向け「Z世代の働き方・価値観」理解セミナーの実施: 経営者が若手社員の視点を理解し、組織運営に活かせるようにする。
- 「外国人社員の参加促進」: 多様性を活かした交流を促進し、新たな視点を取り入れた議論を展開する。
- 自治体・公的機関の連携強化: 地域振興や産業政策を担う自治体関係者にも参加を呼びかけ、官民連携の促進。

## 8. おわりに

本年度の異業種交流会は、若手社員の成長と企業間の相互理解を深める機会となりました。今後も本活動を継続し、さらに発展させることで、福井の若手職員及び経営者の人格形成が相互に向上することがビジネス環境の発展に貢献できると考えています。

以上

## 2024年度 人づくり委員会 名簿

(敬称略、五十音順)

### 管掌

副代表幹事 池内 昭彦 福井放送株式会社 代表取締役社長

### 委員長

常任幹事 田中 謙次 株式会社田中地質コンサルタント 代表取締役社長

### 副委員長

常任幹事 今村 善信 大電産業株式会社 代表取締役社長

常任幹事 増永 宗太郎 増永眼鏡株式会社 代表取締役

### 企画幹事

大壁 勝洋 OOKABE GLASS株式会社 代表取締役CEO

加茂 直人 株式会社カモコン 代表取締役社長

北川 浩文 株式会社日本エー・エム・シー 代表取締役社長

小泉 綾子 松文産業株式会社 代表取締役社長

後藤 正邦 弁護士法人高志法律事務所 代表社員

佐藤 浩一 福井コンピュータホールディングス株式会社 代表取締役

グループCEO

佐野 洋介 福井鐵工株式会社 代表取締役社長

澤田 悟恵 三井住友海上火災保険株式会社 支店長

白江 文夫 セコム北陸株式会社 福井統轄支社 統轄支社長

城 勝義 日東シンコー株式会社 代表取締役社長

高木 義秀 福井経編興業株式会社 代表取締役社長

佃 祥孝 中部鋳業株式会社 代表取締役

中田 善弘 株式会社キャリアプラス 代表取締役

花島 信 福井大学 参与

日谷 翔 ヒダニ電機株式会社 代表取締役社長

平木ひとみ 日本商運株式会社 代表取締役

堀川 耕地 株式会社シャルマン 代表取締役社長

前田 定和 株式会社北陸銀行 福井地区事業部

副本部長執行役員

福井支店長

前田 尚宏 前田工織株式会社 代表取締役社長

兼COO

益永 哲郎 益茂証券株式会社 代表取締役会長

松田 将裕 株式会社新和コンサルティング 代表取締役

### 特別幹事

玉木 洋 福井キャノン事務機株式会社 代表取締役会長

以上26名

### 事務局

東山 清和 福井経済同友会 専務理事・事務局長

三田村 琢哉 福井経済同友会 事務局次長

# 「新時代の異業種交流会」に関する報告

